

**● 浜 の 話 題**

- 4月17日、横浜市漁協柴支所会議室において、神奈川県あなご漁業者協議会の総会および研修会が開催されました。研修会では、最初に県水産技術センター栽培推進部職員よりマアナゴ資源調査の結果が報告され、メソ（マアナゴの稚魚）の採捕状況から今年は前年をやや上回る漁が予測されるとの説明がありました。次に同センター企画資源部職員から、東京湾貧酸素水塊調査の結果が報告され、蓄養マアナゴのへい死と溶存酸素量の関係についても話がありました。出席者からは活発な議論があり、水産技術センターとしても調査方法や考察の参考となりました。



研修会の様子

- 5月9日、横須賀市大楠漁協と三和漁協城ヶ島支所は、3月から実施しているウニ養殖試験で飼育中のムラサキウニの測定を行いました。餌のキャベツを盛んに食べたウニは生殖腺が大きく発達し、また色も鮮やかな黄色になっていました。出荷適期を判断するため、今後も定期的に測定を行っていく予定です。



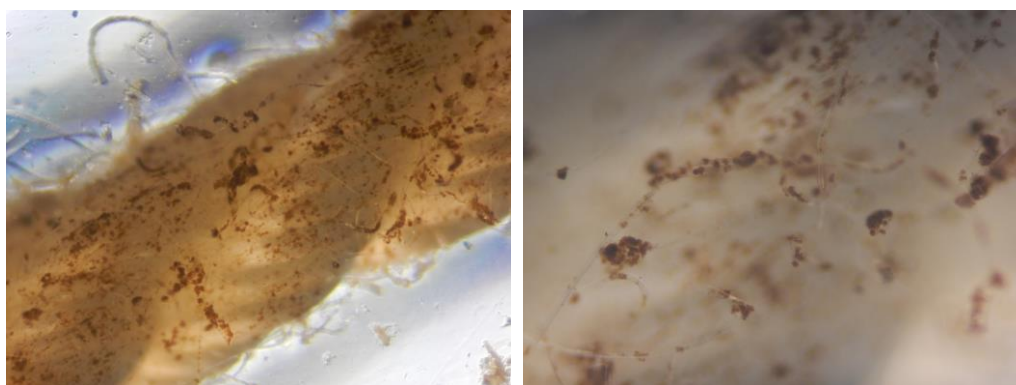
卵巣が発達してきたムラサキウニ

- 5月12日、小田原漁港にて「あじ・地魚まつり 2019」が開催されました。当日は天候も良く、昨年より2千人多い3万人もの方々が来場しました。小田原市漁協では、漁協職員と漁業者が手作りした「イカの煮付け」や「さつまあげ」、「サバの竜田揚げ」および「サザエの壺焼き」を販売したところ、どれも昼前に完売しました。朝獲れ鮮魚の直売コーナーも沢山の人が行列を作り、アジやイナダ、サバなどを買い求めていました。また、イシダイの活魚すくいも盛況でした。



あじ・地魚まつりの様子

- 5月に入り、腰越漁協所属の漁業者は、しらす船曳網漁や刺網漁で掛かった海中のごみを回収する「腰越の海のクリーンアップ活動」に取り組んでいます。周辺の海域では来年の東京オリンピックでセーリング競技の開催が予定されており、それに向け腰越の海をきれいにしようという取組です。空き缶やビニール製品等のほか、自転車や古タイヤなど大きなものも回収されており、漁業者は「皆さんも海を汚さないように心がけて下さい」と話していました。
- 5月前半、三浦半島各地区の漁業者が3月から4月にかけて種付けしたワカメ種苗の状態を、各担当普及指導員が顕微鏡で確認しました。ほとんどの種系で配偶体（ワカメの種のようなもの）が確認でき、種付き状態は良好でした。今後の順調な生育が期待されます。



顕微鏡で見たワカメ種系（左 40 倍、右 100 倍）。黒いものがワカメの配偶体

## ●お知らせ

- 6月1日より、県水産技術センターは組織改編により新しい体制で業務を行います。各部課の主な業務は以下のとおりです。
  - ・管理課：予算・経理事務、庶務事務、財産管理事務
  - ・船舶課：船舶の運航・管理、漁業取締り、漁業無線通信業務
  - ・企画指導部（企画調整担当）：試験研究の企画調整、海況予測研究
  - ・企画指導部（利用加工担当）：水産加工技術等の開発研究、食品・水質等分析業務
  - ・企画指導部（普及指導担当）：水産業普及指導、担い手育成
  - ・栽培推進部（資源増殖担当）：水産資源・水域生態系の調査研究、放流効果や放流技術開発の調査研究、藻場・干潟の再生や漁場形成の調査研究
  - ・栽培推進部（種苗開発担当）：栽培漁業の技術開発研究、増養殖・防疫の研究開発